

会館に少しずつ見学者戻る

コロナの沈静化(とは言えまだ少し増加傾向ですが)と緊迫するウクライナ情勢を反映してか、来館者が少しずつ増えてきています。

札幌学院大学の教職課程の学生たち、JR貨物労組のみなさん、コープさっぽろ組合員活動部の皆さん、新婦人の皆さんたちが来館しています。いくつかご紹介します。

6月21日、札幌市の厚別点訳サークル「すずらん」の皆さん13名がそろって会館に。今年がサークル発足30周年とか。昨年



30周年を迎えた会館と期せずして同じ歴史です。DVDを観て被爆者の話を聞き、会館の説明を受けて展示品を鑑賞、「なぜ今までここに来なかったの

だろう」と思っています。なぜ知ろうとしなかったのだろう。今日お聞きした話、見たことをほかの方にもお伝えします。」と感想をノートに書いてくれました。嬉しい出会いでした。

6月27日午後は長い歴史を持つ日本キリスト教婦人矯風会の8名の皆さんが来館、松本さんの被爆体験をうなずきながら聞いていました。95歳のご婦人も娘さんと参加、本を3冊借りていきました。



絵本『北の里から平和の祈り』の作者こやま峰子さんの友人が来館、展示を観た後感動的な感想を残してくれました。

「声をあげることなく亡くなられた方の無念と苦しみは想像もできませんが、資料館が教えてくれるのは核廃絶と平和への希求を声をあげて続けて求めていかなければという思い、祈りです。国家の利害で罪なき人々が今も命を落として

いる世界。一人一人が平和への思い、祈りを持つことで、国同士が対立するのではなく、対話で共存していける世界になります様に。目をそむけたくなるほど辛い写真や証言は私を奮い立たせてくれました。平和の本の読み聞かせを通して私自身ができることをしていきたいと思えます。地道な活動をして下さっている方々に敬意を表しつつ……。」

7月2日、札幌市教職員組合の「平和・人権・民族」小委員会の皆さん11名が「ミニ実践講座」でヒバクシャ会館を訪れました。長崎で被爆した宮本さんの話を聞き、展示室を見学、そして参加者で交流。若い先生方



の参加も目立ちました。この後毎月のように学習の予定が組まれています。「教育の場から平和を」の気概を感じる来館でした。

7・8月の行事

詳細はお問い合わせ下さい。

7月21・22日

被爆の証言と原爆展

今年8回目となります。札幌東陵高校のジオラマ「もし原爆が札幌駅上空で炸裂したら」も特別出品されます。

被爆の証言は21日が被爆者、22日は二世が行います。

会場：道庁本館1階ロビー

8月6日

原爆死没者北海道追悼会

今年は3年ぶりに一部、二部の二部構成です。二部では中村政子さんが証言します。

会場：ホテル・ノースシティ

13時～15時30分

8月1日～28日

絵本『北の里から平和の祈り』

原画展

ノーモア・ヒバクシャ会館の建設と被爆者の願いを子どもにもわかりやすく伝えます。21日には絵本の読み聞かせ、作者こやま先生の講演があります。

会場：剣淵町絵本の館

8月28日(日)

被爆二世プラスの会会員のつどい

会場：ヒバクシャ会館

第一部 映画「二重被爆者」

12時30分～

主催はももこ&みちえさん。そこに二世プラスの会は合流します。お二人は平和を守るため全国を旅して情報発信しています。無料です。

第二部 会員の集い

14時～15時

会館の夏休みです!

8月 11(木)～17(水)